



もうかる畜産経営を

二百五十余人が熱心に聴講

町畜産講演会が二月二十四日、秋田県畜産会の橋本行雄参事を講師に迎え、有隣館で開かれました。

これは、諸情勢の変化に対応できる畜産経営と技術の安定確立を——と、町・農協・共済組合が毎年共催しているものです。

会場の集會室には、お年寄りやお母さんたちを中心に、日頃から牛の世話に熱心な人たち二百五十人余りが集まり、「畜産経営の現状と将来の展望」と題した約二時間の講演に、ひと言ももらさず聞いていこうと真剣に耳を傾け、メモを取っていました。

講演のなかで橋本参事は、畜産経営を取り巻く最近の情勢を説明しながら、▽飼養管理の適性化▽記録・記帳の励行▽借入資金の限度額▽良質自給粗飼料の確保▽経営実態の把握——などについてわかりやすく話し、「経営の黒字・赤字は、やり方次第。基本技術を見直し、もうかる畜産経営に努力してほしい」と、農家の積極的な取り組みを期待しました。（講演要旨を六面に掲載）

町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

出稼者激励懇談会



元気で安全就労を

出稼者安全就労推進集会及び激励懇談会

在京町出身者50余人が激励に

「元気で安全就労を」……と
出稼者を激励する町長

また、今年は、東京東由利
会会員ら東京で活躍している
在京町出身者五十余人も集
会に出席し、出稼者を励ま
すとともに、郷里の話に花を
咲かせました。

入役、議会議員、農業委員会
長、農協長らと懇談、降雪状
況や就労状況などについて情
報交換をしました。

当日は、都内および近
県からこれまで最高の百
九十五人の出稼者が出
席。町から上京した町長、収

安全ルールを守り、元
気で就労を——町では、
二月二十一日に東京・千
代田区の全国都道府県会
館で、出稼者安全就労
推進集会および激励懇談
会を開きました。これは、
出稼者援護対策事業の一
つとして、七年前から毎
年この時期に実施してい
るものです。



「お父さん元気ですか」と、声の便りに耳を傾ける出稼者の胸には熱いものが……

つに立ち、農業生産基盤の整
備や道路整備、出羽丘陵開発、
工業導入、小学校統合などの
現況を説明し、町政への理解
と協力を要請するとともに、
「今日はゆつくり懇談し、明
日からまた、元気で頑張っ
てください」と激励。小野町議
会議長、佐藤県出稼者互助会
東京連絡事務所長、小松農協
長、双葉電子工業株式会社
(千葉県)の金子勤労課長、佐
藤政次東京東由利会会長(新
処出身)、小松昭光氏(弁護士、
宇戸坂出身)らが、励ま
しのあいさつをしました。

続いて、町担当職員が、出
稼者の動向や安全就労、賃金
不払事故防止などについて説
明。さらに、玉米小六年の小
松育子さん、大琴小五年の鈴
木貴子さん、東由利中三年の
畠山誠君、それに、小沼本荘
公共職業安定所長からの「声
の便り」を紹介しました。

「わたし達は、寒さにも負

けず元気です。お父さん達も
体に気をつけ、春には元気で
帰ってきてください。楽しみ
に待っています。」「仕事の内
容がよくわからないので心配
です。手紙でも様子を知ら
せてください」ととテープ
レコーダーから流れる「便り」
に、出稼者らは、目を閉じ、
腕を組み、あるいはうつ向き
ながら、ジッと聞き入り、雪
のなかで留守を預かる妻や子
供たちに思いを寄せていまし
た。

その後、木島忠一さん(黒
沢)、鈴木博さん(大琴)、
小野清幸さん(宿)が、それ
ぞれ就労先事
業所の概要と
就労状況を紹
介。続いて、
懇談会に移り、
参加者は、お
酒やジュース
を交わしなが
ら、近況や情
報交換を行い、
交流を深めま
した。



↑町出身の民謡歌手、尺八奏者らがうたと踊りで激

町の現況を知らせる写真に
見入る出稼者たち



↓お酒を酌み交わしながら話題はつきない



ぎ者を励ま

東由利町出稼者安全就労推進



姓・高橋)が寺田出身の尺八奏者・畠山重雄さん、三味線、太鼓の奏者らを連れて駆けつけ、うたと踊りでムードを盛り上げ、大いに喜ばれました。

午後五時、伊東隆さん(蔵新田)の音頭で、お互いの健康と春には元気で帰省することを誓い合って万歳を三唱し、盛会のうちに会の幕を閉じました。



東京東由利会を代表し、激励のあいさつをする 佐藤政次同会会長



「横小路出身の畠山です」…在京町出身者50余人が訪れ、すとともに郷里の話に花を咲かせた

資質・能力の改良に期待

舟木の
大庭さん カナダからホル牛導入

されたものです。

外国産の優良乳用牛を導入し、乳用牛の資質・能力などの改良を計画的に進め、酪農経営の合理化と安定を——と二月七日、舟木の大庭喜一郎さん(二十八歳)は、県の補助事業の「優良ホルスタイン種導入事業」でカナダから初妊牛一頭を導入しました。

牛の名前は「ニューランズ・シックコリン」と言い、昭和五十四年九月二十日生まれでカナダホルスタイン登録協会の血統登録牛です。購買代金は、諸経費を含め三百五十六万円。農場検査、出国検査をパスし、一月二十日成田に空輸されたコリン号は、そのまま農水省動物検疫所成田支所天浪検疫場で十八日間検査を受け、大庭さんに引き渡



コリン号には、五十六年八月に「アールマールソノックマンレストター」という最高クラスの種雄牛の種が付けれ、五月には第一子が生まれることになっています。

我が国の酪農は、牛乳や乳製品の消費量が伸び悩みを見せ、生乳の過剰基調にあることから生産調整を強いられるとともに、食料嗜好の変化などから乳質・泌乳量・体型の改良が大きな課題となっています。

現在、搾乳牛八頭、育成牛十頭を飼育している大庭さんは、こうした現実を直視し、「これからは頭カナダから導入した優良ホルスタイン種と導入者の大庭さん

臨時議会

上の山地内の山林を取得

工場・生活関連施設用地に

町議会第一回臨時会は一月三十日に召集され、次の二案を審議、いずれも原案どおり可決して閉会しました。

【財産の取得について】

農村工業導入促進法による工業用地及び生活関連施設用地を造成し、住民福祉の増進に役立てるため、蔵字上ノ山地内の山林・原野合わせて五八、二八二平方メートルを取得するものとした。

【昭和五十六年度町一般会計

数だけでなく乳質・泌乳量が勝負のきめ手。導入牛は、人氣牛の系統で、期待どおりの牛がきてくれた。高価な牛だが、それに見合う成果が得られるよう二世、三世に期待をかけている」と話し、「出羽

丘陵開発で粗飼料を確保し、将来は搾乳二十頭、平均泌乳量七、〇〇〇キ以上を目指したい」と、水稲プラス酪農の複合自立経営確立にファイトを燃やしていました。

補正予算(第五号)

債務負担行為に、次の二項を追加した。

・事項 昭和56年8月から10月までの間の低温災害による天災資金の利子補給及び損失補償

・期間 昭和57年度～昭和63年度

・利子補給金限度額 三百
・損失補償限度額 八百万
円

所得税の申告と納

税は3月15日まで

所得税の確定申告は、お済みですか。三月十五日が期限です。

申告しなければならぬ人が申告をしなかったり、誤って少なく申告したりしますと、後で不足の税金を納めるだけでなく、加算税なども納めなければならぬとなりますので、忘れずに正しい申告をしてください。

・事項 東由利町工業用地及び生活関連施設用地取得(秋田県町村土地開発公社委託分)

・期間 昭和56年度～昭和65年度

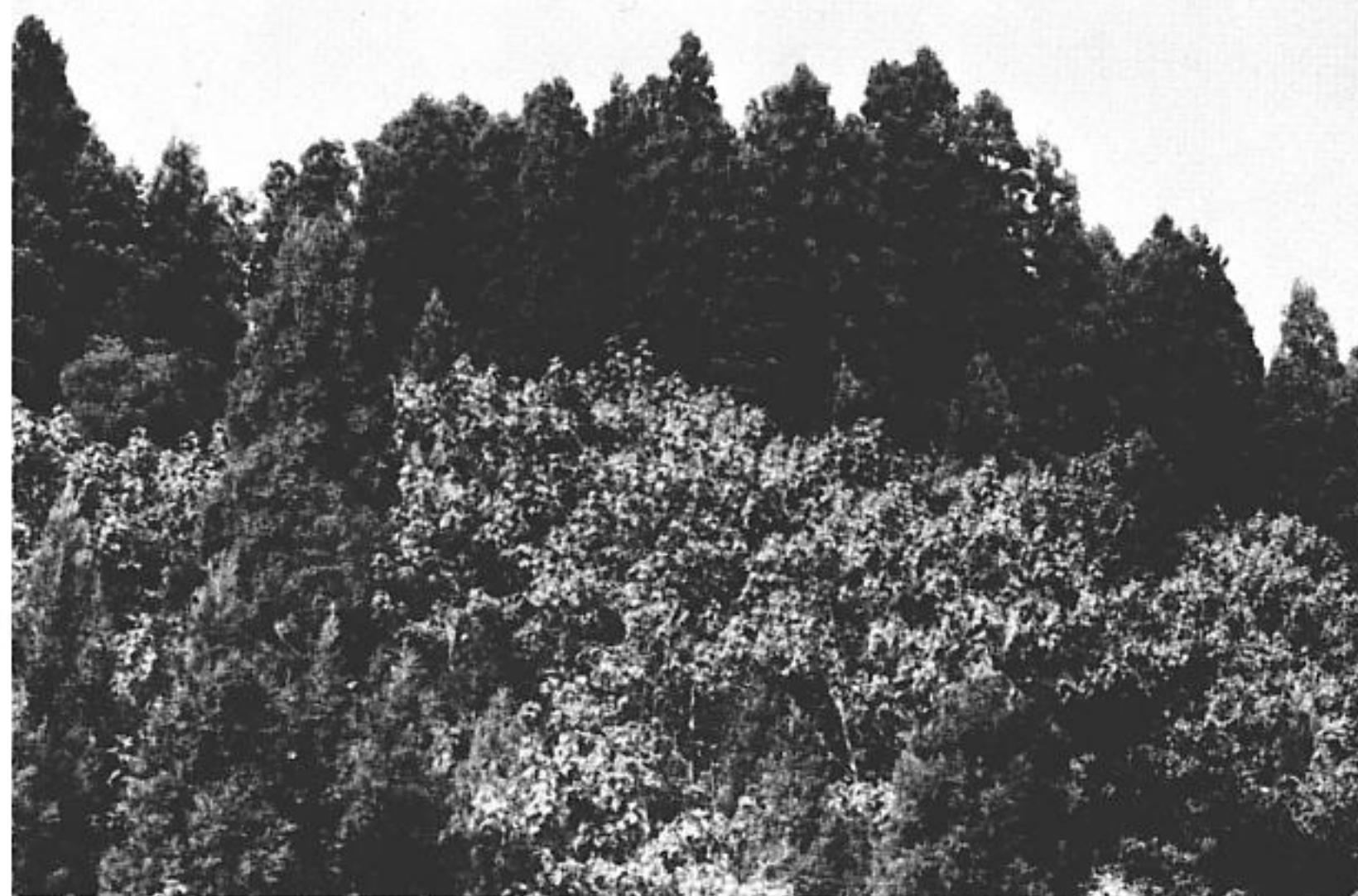
・限度額 払込金三千三百万円及びこれに対する年利率8・5%以内の利息

健全な森林造成と良質材生産

保育・間伐作業が課題

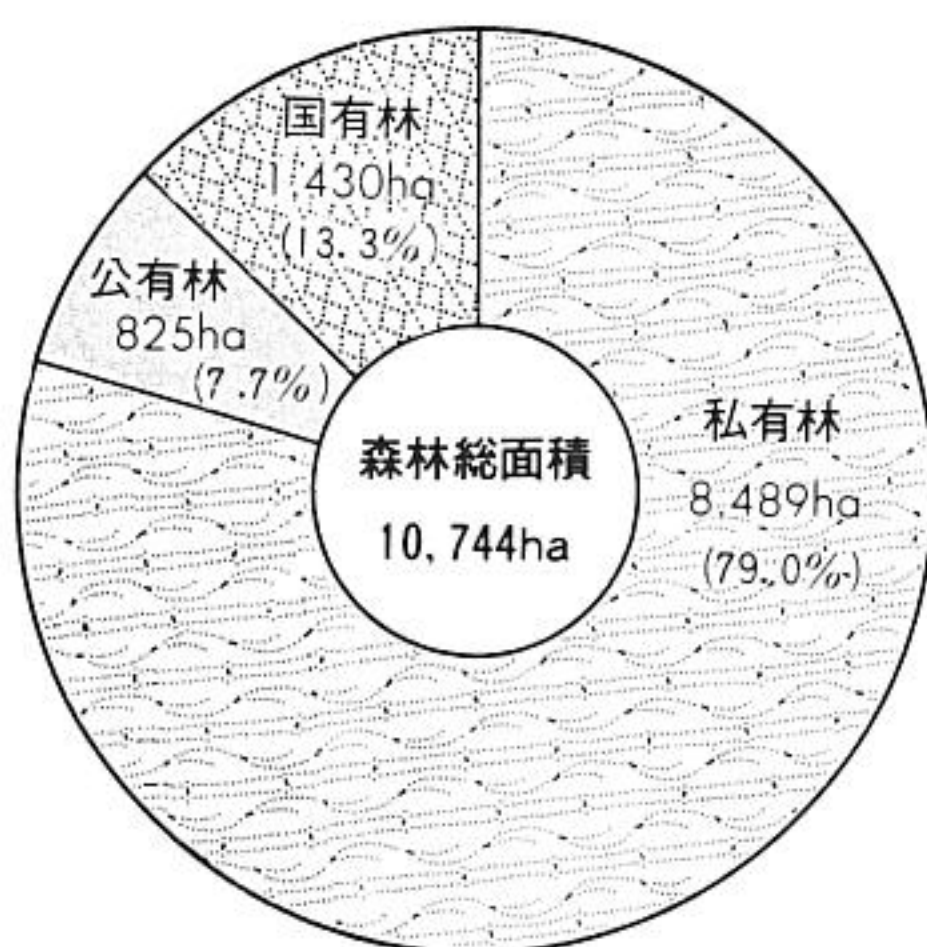
桐は県内第二の産地

全町面積の七二・三％を占める山林——この活用は、豊かな町づくりのうえで農業振興とともに重要課題の一つです。近年、林業を取り巻く情勢は、木材需要の伸び悩みや外材の進出、価格の低迷、山村の過疎化——など厳しいものがありますが、町では、財産形成とともに、きたるべき国産材時代に備え、中核林業事業や間伐促進事業などの国の制度を取り入れ、健全な森林の造成と良質材の生産振興を推進しています。今号では、町の林業にスポットをあててみました。



杉と桐の混植で森林の生産性を向上

〈表1〉保有形態別森林面積
(1980年農林業センサス)



本町の林家戸数は九百二十五戸、森林面積は一〇、七四四haで全町面積の七二・三％を占めています。これを保有形態別に見てみま

人工造林は10年間で1.5倍に

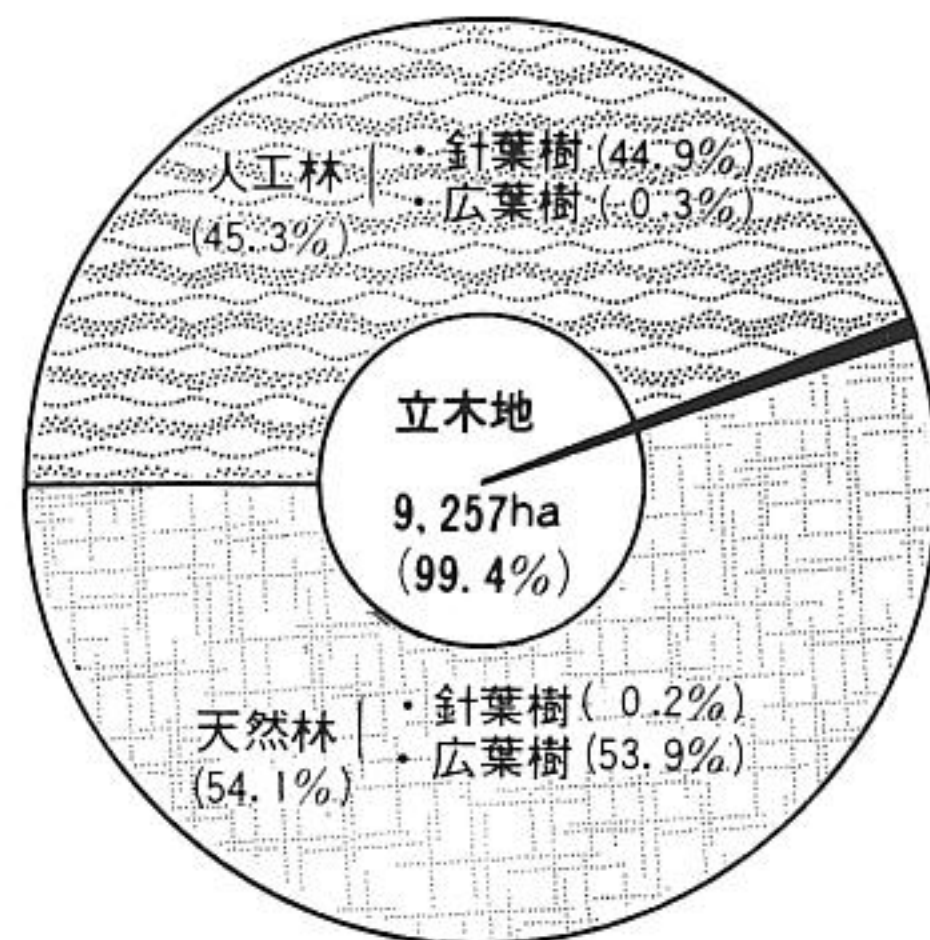
す。国有林が三・三％の一、四三〇ha、町・林業公社の公有林が七・七％の八二五ha、私有林が七九・〇％の八、四八九haとなっています。国有林に対し、公有林と私有林を合わせて民有林といいます。

本町民有林の人工造林面積は、昭和四十五年の二、八二一haだったのが、昭和五十五年には四、二一八haと約一・五倍になりました。このように伸びた理由としては、昭和四十四年から三年間実施した入会林野整備事業▽同年から七年間連続して行われた全県一斉造林運動——があげられます。

国の制度を取り入れ保育作業を推進

人工林のほとんどは杉です。植林が進むにつれて、人工林のおよそ八七％が三十年生以下の若齢林で占められるようになり、良質材生産のために「保育・間伐作業」が大きな課題となってきました。また、林家のほとんどが農家で、これら農家の営む林業は、個別分散的な零細保育構造のうえに、木造価格の低迷、造林対象地の奥地化、経営費の増大などから、ここ数年、林家の造林意欲が低下し、生

〈表2〉民有林の樹種別割合
(1980年農林業センサス)



〈表3〉桐の植栽面積の推移

年度	一斉林	杉・桐混植林	計
昭49	16.82ha	— ha	16.82 ha
50	10.13	15.35	25.48
51	8.36	12.79	21.15
52	13.56	11.20	24.76
53	9.73	10.08	19.81
54	12.60	7.40	20.00
55	5.27	7.00	12.27
56	3.20	7.80	11.00
計	79.67	71.62	151.29

産活動は必ずしも活発とは言えませんでした。

こうしたことから町では、安定的な林業経営を確立させるとともに、優良な林業地帯を——と、昭和五十二年から矢島町・由利町とともに子吉川中核林業振興地域の指定を受け、林道・作業道の整備や下刈・除伐・間伐・雪起こし——などの保育作業を推進してきました。

この結果、五年間で拡大造林百七十三四ha、再造林十七六haと延べ三、四六五haの保育作業が行われ、一億三千四百萬円の国庫補助金が交付される見込みになりました。中核林業事業は五十六年度で終わることになっており、町では、新たに間伐促進対策事業を実施するとともに、五十七年度からは森林総合整備事業に取り組み、集团的・組織的・計画的に優良林産地づくりを進めていくことにし、

グリーンマーク制度

マークを集めて
校庭に苗木を

図のような、木の形をあしらったマークをご覧になったことはありませんか。小・中学生向けの学習雑誌やトイレット・ペーパー、ちり紙の包装紙に表示されています。

このマークは「グリーンマーク」と呼ばれ、これが表示された紙製品は、古紙を原料としてつくられていることを表しています。

小・中学校単位でこのグリーンマークを一定の枚数集めると、いろいろな樹木の苗木と交換できます。

これが、昭和56年9月に発足した「グリーンマーク制度」で、通商産業省所管の財団法人古紙再生促進センターが出版社や社団法人日本植木協会などと提携し、全国の小・中学校を対象に行っているものです。

この制度による苗木の配布を希望される小・中学校（PTAなど）は、財団法人古紙再生促進センター・グリーンマーク実行委員会事務局に、はがきなどでお申し込みください。住所は次のとおりです。

〒104 東京都中央区銀座2丁目16番12号

銀座大塚ビル内 電話番号03-543-1470

事務局では、申し込みを受けると「グリーンマーク貼付台帳」と「グリーンマークのてびき」を郵送します。

なお、グリーンマーク掲載の紙製品の種類や交換苗木の種類など詳しいことは、同事務局までお問い合わせください。

杉は、伐期に達し所得が得られるまでには少なくとも四十五十年の長期を要します。このため町では、山林の効率利用▽稲作との複合経営による通年就労化▽所得の向上といったことから、桐・しいたけ・栗などの特用林産物の生産振興も推進してきています。

町単独でも苗木代金への助成や栽培コンクールを開くなど、植栽振興に努めています。この結果、昭和五十六年三月末での植栽面積は約二百畝と五年前のおよそ一・七倍になり、秋田市に次いで県内第二位の産地となりました。町では、今後、さらに植栽を推進し主産地化を目指すとともに、流通面では、一次・二次加工場の設置を検討し、原木生産から製品加工出荷による「キリの町」づくりを進めたいと考えています。

国産材時代に備え
優良林産地づくりを

森林は、林産物の生産はもちろんのこと、国土保全や水資源のかん養、保健休養の場の提供や野生動物の保護など、数多くの公益的役割を果た

古新聞や古雑誌は
貴重な「町の森林資源」です

紙は何かからつくられるか。昔は木材パルプから、今は紙から紙をつくる時代です。

現在、日本でつくられる紙の四〇％は、古紙を原料にしています。十数年前までは、紙の原料となる木材パルプは国内材だけで賄われていました。しかし今日では、輸入材を用いてもまだ足らず、古紙の再利用が大きくクローズアップされてきたのです。

ところで、古紙を紙の原料としてみた場合、一トン分では高さ八メートル前後、直径約十六センチの原木二十本に当たります。つまり、読み終えた新聞や雑誌を捨てないでためておくことは、言わば家庭で「原木」を育てているのと同じことになるのです。

ちなみに、一つの新聞（全国紙）を一年間ためると、ざっと五十キロぐらいになります。

今後の木材需要の動向は、需要の大幅な伸びが見込まれないなかで、国産材の供給力は次第に増えていくとともに、外材供給が不安定となり、将

来は減少に転ずることが考えられ、国産材を主体に木材が供給される、いわゆる「国産材時代」の到来が予想されています。

こうしたことから町では、



から、紙の原料としては原木一本分に相当することになります。その上、一本の木が紙の原料として使えるようになるまでには、広葉樹で数十年、

生長の速い針葉樹で十二三年はかかりますから、一年で育つ家庭の「原木」は、いかに効率的かが分かります。古紙が「町の森林資源」といわれるのもそのためです。

また、古紙を使つての紙づくりは、木材を原料とする場合に比べてパルプの生産工程が省略でき、その分の電力や重油が節約できるといふ利点があります。

このように、古紙は省エネルギー時代にあふふさわしい紙の原料といふことができます。古紙はゴミではありません。要らなくなった新聞、雑誌、段ボールなどは、まとめて回収業者に出すよう心掛けましょう。

国保の窓

進学の場合
は申し出て

就職のため転出される方は、転出と同時に国保の資格も喪失することになりますので、転出証明書

の交付を受けるときは必ず保険証を持ってきてください。

転出される皆さんへ

進学のために転出される方は、転出証明書の交付を受けるときに、その旨を国保担当係に申し出てください。そうしないと、資格喪失してしまう場合がありますので注意して

マル学（学）保険証の有効期限は、毎年三月三十一日となっています。期限後は速やかにお返しください。

新たに（学）保険証を必要とする方は、在学証明書またはこれに代わる証明書が必要ですので、交付申請時までに準備しておいてください。交付申請時のときは、世帯主の印鑑が必要です。

（学）保険証の有効
期間は3月31日



講演する橋本参事

心配ない牛肉生産

需要と供給のアンバランスや牛肉・豚肉・乳製品の輸入などから、現在、肉用牛以外の畜産(鶏・牛乳・養豚)は生産調整が行われている。これに対し、「将来は肉用牛も」と心配する向きもあるが、世界の牛肉生産と消費動向から見ると、生産過剰という事はないと考えている。むしろ、日本人の嗜好、日本農業の強化、農家経済の安定、地力増強といったことから和牛は増産しなければならぬ情勢にあるといえる。

良質自給粗飼料の確保が経営支配

肉牛経営の実態をみてみると、個別間の所得格差が著しく、特に、単位当たり所得の上限と下限の差は極めて大きい。この要因としては、飼養者の飼育方、経営感覚によるところが大きい。言い換えれば、飼育方によって黒字経営になる

畜産経営の現状と

将来の展望

秋田県畜産会参事 橋本行雄

講演要旨

し、赤字経営にもなるということである。

もうかる経営をするには、▽一年一産▽素牛の耐用年数を長くする▽適性な飼養管理——といったことが大事である。そして、生産費の大部分を占める「飼料費のコストダウン」に努めることである。

牛は草食動物であり、口から先からしつぽの先まで、草を食べて生きていく体のつくりになっている。そのことが意外に忘れられている。

牛にとって、草は生理上あるいは生産上最も合理的な飼料であるのみならず、経営上最も経済的に自給できる飼料であることは言うまでもない。草すなわち良質自給粗飼料必要量の絶対的な確保が、経営所得を支配する重要な基本要因である。

適性規模を究明し段階的に増頭

近年、労働生産性の向上ということから「省力管理」が行われ、それなりの成果を収

めている。しかし、反面、省力管理が「省略管理」となり、労力不足による生産成績の低下を招いている例も見受けられる。手をかけ、目をかけただけの生産があがるものであり、いま一度、飼養管理を見直してほしい。

今後は、多頭飼育というところを考えていかなければならない。最も良いのは、環境に慣れている自家生産牛を保留育成しながら、一步一步階段を登るように、堅実に増頭していくことである。

単純安易に飼養頭数のみを増大させてはいけない。健全な畜産経営を安定的に成立させるためには、常に、▽土地(草)▽資本▽労力▽技術——といった経営成立の諸要因と飼養規模とが均衡する、段階的に増頭、確立していくことが肝要である。

健全な畜産経営を安定的に成立させるためには、常に、▽土地(草)▽資本▽労力▽技術——といった経営成立の諸要因と飼養規模とが均衡する、段階的に増頭、確立していくことが肝要である。

借金は一頭当たりのもうけ額を考慮

規模拡大をしていくには資

本が必要である。しかし、その多くを他人資本に依存することは、言うまでもなく危険である。借り入れ額は、一頭当たりのもうけ額を考慮したうえで、慎重に検討しなければならない。

経営資本の負債の過大は、必然的に支払利息と償還元金の増大を招き、甚だしい場合は、生産面あるいは技術面でいかに優れた成果をあげたとしても、経済面では経営が成り立たないような結果に陥ることになる。つまり、年間借入償還仕向可能額の明確な把握と、これに即応する適正な借入限度額を守らなければならない。

また、これに関連して重要なことは、いかに投下資本を少なくするかである。投下資本のなかには「牛の購入代金」と「建物・施設・器具の整備費」があるが、後者からは資本の回収はできず、できるだけ費用をかけないようにすることは言うまでもない。前者の抑制には、自家保留育成も一つの方法である。

これまでは、肉用牛の放牧

に対して理解と関心が薄かったが、これからは、多頭化を支え、生産原価の低減を図るうえからも放牧を取り入れることが大切と考える。そのためには、預ける方も、預かる方も放牧技術を習得しなければならない。当町では、すでに裏山放牧をしている人がおり、結構なことである。

経営内容を定期的自己診断

多頭化の進行とともに、経営の実態を把握し、客観的に、記録記録を励行してほしい。難しい簿記をつけるというものではなく、自分で自分のやっていることを記録し、それをもとに問題・原因を見極め、経営の改善向上を図っていく努力が大切である。

「暗闇に牛」ということばがあるが、これではいけない。夏と冬、妊娠牛と子付き牛とでは飼料給与量が違う。常に飼養家畜個体の諸条件と飼養環境、気象条件などに適応したきめ細かな個体別管理を徹底してほしい。また、個体衛生はもちろん、環境衛生に気を配り、疾病事故発生を未然防止に努めてほしい。

もうかる、もうからないのは飼養者の責任である。経営実態の正確な把握を前提とした

定期的な経営内容の自己診断により、問題点などの究明と合理的、計画的な改善対策を講じてほしい。

もうかる経営の確立に努力を

肉用牛の究極は牛肉生産にある。したがって、繁殖だけでなく、肥育も考慮しなければならない。当町は繁殖がほとんどであるが、将来の方向として、地域としての繁殖・肥育の一貫経営が課題と思われる。ただし、繁殖技術と肥育技術は根本的に違うものであり、それぞれの技術を習得したうえで取り組まなければならない。また、肥育は、濃厚飼料主体であることから多額の資本を必要とし、その調達が問題となるが、これも飼養者のやり方、認識によって健全経営が維持できることは前述のとおりである。

当町では、出羽丘陵開発に取り組み、肉用牛の振興を一層図るということであり、農家・農業団体・行政がお互いに理解・協力し、研究し合っ、価格低下にも対応でき、「もうかる畜産経営」の確立に努力してほしいと願うものである。

14・15・16歳が全体の7割

進む低年齢化

少年非行



非行の芽は早いうちに摘み取るように

連日のように、少年非行がニュースで報じられていますが、この深刻な状況は、数字の上にも、はっきりと表れています。まず第一に挙げられるのは、刑法犯少年、つまり刑法に触れる罪を犯した十四歳以上、二十歳未満の少年が増えていることです。五十六年一月から十一月までに全国で補導された少年は十六万八千人を超え、前の年の同じ時期に比べて約一万八千五百人、一二％の増加率になっています。これを年齢別に見ますと、最も多いのが十四歳、続いて十五歳、十六歳の順で、これら三つの年齢を合わせると十二万人を超え、全体の七割以上を占めています。このように、低年齢化、とりわけ中学生の非行増加が一層目立ってきたのが、最近の特徴的な傾向です。

非行の種類で最も多いのは窃盗。単純な動機で万引きをしたり、自転車などを盗む、いわゆる「遊び方非行」が依然として目立っています。また、これまで年々減っていた粗暴犯、知能犯が増加に転じているのも新たな傾向で、校内暴力の増加はその表れの一つです。

非行の兆しを知る ことが防止への道

少年非行の防止は、今や国民的な課題と言ってもいいでしょう。しかし、少年たちは、ある日突然、非行に走るわけではありません。注意していれば必ず見い出せる「前触れ」があります。

例えば、子供の言葉遣いや態度に変化が見られた場合です。何かという、投げやりな言葉を吐いて、真面目な生き方を軽蔑（けいべつ）するような態度を見せたり、すぐ

状況が贈られました。カッコ内は職名および在職年数。

◎在職30年以上表彰

・小松耕之助(総務課長、35)
・嶽石文男(税務課長、32)
・森川昭児(住民課長、32)

◎在職20年表彰

・榎野忠義(住民課参事)・阿部力(企画財政課財政係長)
・菅原賢治(総務課総務係長)
・小松与一郎(建設課工務係長)
・佐藤貢(建設課庶務係長)



在職30年以上表彰を受けた上から小松総務課長、嶽石税務課長、森川住民課長

フサヨ(東由利中学校用務員)
・高橋サヨ(老方小学校用務員)



にわかるようなうそを言ったり、それが親や先生に知れても平気というような様子が見られるときなどは、非行化への注意信号がともっていると考えられます。また、親のよく知らない友達がいっしょの間に増えていて、名前を聞いてもあいまいな返事をするとか、外出先や帰宅時間がはつきりしなくなってくることも、要注意です。そのほか、食べ盛りなのに、夕食に手を付けないことが増えたようなときは、学校帰りにスナックなどに寄り道している場合が多いようです。生活時間をきちんと守らせ、友達づきあいについても、ときには親同士が連絡をとって確認し合うなど、子供の生活の輪郭をしっかりとつかんでおくことが大切です。

大琴婦人消防隊に表彰旗と制服60着

日本消防協会定例表彰

梅津副団長は精績章



制服を着、表彰状と表彰旗を手喜びの大琴婦人消防隊代表者と梅津副団長

第三十四回日本消防協会定例表彰式は二月十日、東京・港区の日本消防会館で行われ、席上、本町の梅津栄一副団長(四十六歳、大琴)に精績章が、大琴婦人消防隊(大日向澄子隊長、隊員九十人)に優良婦人消防隊長表彰旗と副賞として制服六十着が贈られました。梅津副団長は、昭和二十九年に消防団員となつて以来現在まで、二十八年以上にあたり団員の指導と防火思想の普及高揚、消防施

くことが大切です。一方、非行に向かう初期の段階で、少年たちのほとんどが喫煙を経験します。ポケットにたばこが入っていたり、においがするようときは、要注意です。もし、近所の少

年がたばこを吸っている姿を見かけたら、ひと声かけて注意してほしいものです。大人がしっかりスクラムを組んで、早いうちに非行の芽を摘み取るようにしたいものです。

設の充実に貢献してきた功績が認められたものです。また、大琴婦人消防隊は、昭和二十九年に発生した大琴大火を再び繰り返すまいと、三十二年一月に結成され、以来、毎年数回にわたって消火栓操法と小型ポンプ操法の訓練を実施しているほか、防火座談会や火災予防講習会、各家庭の火の元点検を毎月行うなど、地区の火災予防思想の普及徹底に努めている功績が認められたものです。



内・外壁などを修繕

町建設技能
組合青年部
が奉仕作業

大工や左官、板金工などで組織している町建設技能組合青年部（小松俊博部長、部員四十五人）は、二月十二日、今年も一人暮らし老人宅や大琴診療所、消防機械置場などの小破修繕奉仕作業を行いました。

労力奉仕作業に汗を流す技能組合の青年部員

この奉仕作業は、自分たちのできる範囲で地域社会に役立つことを——と、六年前から毎年この時期に行っているものです。

厚生年金に入 ったら届出を

農業者年金加入者の皆さん

農業者年金に加入している方で、出稼などで厚生年金

当日は、三、四人ずつに分かれ、戸車や建具の調整、内外壁や屋根の修繕に汗を流しました。午前八時から始められた作業は手ぎわよく進められ、正午前に終了。おじいさんやおばあさんからは、「戸の開け閉めも楽になったし、すき間風も入ってこなくなった」と喜ばれました。

に加入した場合は、会社から「勤務期間被用者年金加入期間証明書」に証明してもらい、農協に届け出してください。証明書の用紙は農協にあります。

この届け出をしないと、受給資格期間不足などで、将来、農業者年金がもらえなくなる場合もありますので、ご注意ください。

詳しいことは、農協または農業委員会にお問い合わせください。（町農業委員会）

お詫びと訂正

二月一日発行三三三三号の五ページ「すすむ道路整備」の記事中、『町道地下の沢線』の地下の沢と黒淵を結ぶ二〇六二は、三三五五円で……は、『町道明通線』の地下の沢と黒淵を結ぶ九四七・四二は、一五九七万八千円で……予定。（県営園地整備事業で施行）の誤り、十一ページ「慶弔だより」の記事中、『工藤春香 新処 良 長女』は、

町長日記

昭和五十七年度予算案が決定し、三月六日に議会が招集されることになりました。予算規模は二十一億九千七百万円で、昨年は一八・四%増、三億四千万円の増であります。

主な内容は、

1、民生費は昨年は九八・七%。昨年は福祉バスを購入したこと、福祉医療費の自然減になったためです。

2、衛生費は、一一・四%。し尿処理、ごみ処理費の増額と斎場補修のためです。

3、農林水産業費は六一・九%で、二億六千五百万円減です。これは、第二次農構、新農構、町営農道、町営草地開発事業が昨年度で事業完了したためです。

4、土木費は一一三・八%で、道路台帳整備費と維持費の増加のためです。

5、教育費は四一六・八%。八塩小学校建築のためです。

6、災害復旧費は一〇九・六%。過年度災害復旧費が繰越しのためです。

以上が増減の多い項目の内容です。

五十七年度の重点事項は、

1、土地改良関係事業は、

『工藤晴香……』の誤りでした。

お詫びして訂正します。

概算で百二億を計画しており、五十八億は実施済み。残り四十四億の五十七年度配分の実施。

2、八塩小学校の建築

3、出羽丘陵開発事業

4、工業導入のための努力と、西山用地の整備の方向づけ

5、水道拡張事業であります。

土地改良事業を町造りの柱としている本町にとりまして、御承知と思いますが、臨時行政調査会の答申の影響が出てきます。この内容については紙面の関係で詳細には書けませんが、いかなれば、農業への助成は過保護であるので、助成を減らすべきだということです。

一面の理由はわかるにしても、結局は強者の論理であって、社会的に力の弱い農林業を補助という形で経済的に補完し、活力を与えなければ、バランスの取れた社会形成ができないという認識に欠けているものである。まして、農家、農村の実態をもっと勉強してもらいたいものと考えます。

3月のこよみ

陰暦・弥生(やよい)

曜 日	行 事
1 月	町県民税申告相談(～4日)
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	高校卒業生のつどい(10:00～有鄰館)
6 土	定例議会(～20日)
⑦ 日	
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	
12 金	育児学級(9:30～有鄰館)
13 土	
⑭ 日	
15 月	東由利中卒業式、住民税・所得税申告期限
16 火	
17 水	住吉小・蔵小・大琴小卒業式
18 木	玉米小廃校式
19 金	住吉小廃校式
20 土	定例議会最終日
⑳ 日	
㉑ 月	
22 火	
23 水	
24 木	
25 金	
26 土	農業委員会
㉗ 日	
28 月	
29 火	
30 水	
31 木	
摘 要	

異動する方は早めに準備を

印鑑・保険証も忘れずに
年金証書

三月から四月にかけては、就職や進学などで住所を異動する方が多くなります。役場の窓口もこの時期になると毎年混みますので、異動する方は早めに準備しましょう。

◎転出の場合
転出する場合

◎印鑑・保険証・年金証書も忘れずに

◎就職、進学時の戸籍謄・抄本
就職や進学に必要な戸籍謄本あるいは抄本は、会社や学校によってそれぞれ違いますので、案内書などをもう一度確かめてから請求してください。

おしらせ

町の概要

人口総数 6,323人
うち男 3,112人
うち女 3,211人
世帯数 1,438戸
面積 148.51km²
(57.1.31現在)

合は、住所を異動する前に役場に届け出て「転出証明書」を交付(無料)してもらい、転出先(就職先や進学先)の市役所または町村役場(東京都などは区役所)へ、転入した日から十四日以内に転出証明書を持参して住民登録してください。

秋田東高で生徒募集

通信教育であな たも高卒資格を

県立秋田東高等学校通信制課程では、三月一日から三十一日まで、昭和五十七年度の生徒を募集しています。

県内に住んでいる方で、中学校卒業(今春卒業見込みの方含む)、またはこれと同等以上の学力のある方であれば誰でも入学できます。

修業年限は定時制と同じく四年以上で、秋田県立秋田東高等学校卒業ということになります。

町功労者

畠山忠太郎氏逝去

町功労者の畠山忠太郎氏(新町、元、日照坂住)は、病氣療養中のところ、一月二十七日に永眠されました。八十一歳(明治三十三年十二月九日生)。

氏は生前、下郷村議会議員、東由利村議会議長、同土木常任委員長のほか、東由利村農業委員、下郷村森林組合理事などの公職を

届け出書類など詳しいことは同校(秋田市中通六丁目六番三六号、電話〇一八八一三四一〇四七三)にお問い合わせください。

善 意

▽大琴小へ雑巾50枚 町連合

町自治功労者

高橋重助氏逝去

歴任、町勢の伸長発展に貢献されました。昭和五十年十一月三日、勲六等に叙せられ単光旭日章受章。同年十一月、東由利町功労者顕彰受章。心からご冥福をお祈り申し上げます。

町自治功労者の高橋重助氏(館合新田)は、病氣療養中のところ、二月十九日に永眠

慶弔だより

1月21日～2月20日出分

〇こぶ声

渡辺正明 田代 誠 長男
長谷山未来 中通 忠誠 長女
遠藤一博 蔵新田 博秀 長男
小野聖司 上里 武男 長男
小松利史 下通 利和 長男
高沢智幸 荻沢 吉次郎 二男
高沢照明 荻沢 照久 長男

〇結婚

遠藤 寿 幸 祝 沢
高橋 幸子 雄物川町

・お悔み申し上げます

遠藤 松子 小倉 24歳
佐藤 金吉 黒瀧 77歳
伊東 サエ 蔵新田 63歳
佐藤 チエ 黒瀧 71歳

されました。七十歳(明治四十四年三月二十五日生)。氏は生前、玉米村議会議員、東由利町議会議長のほか、東由利村農業委員、玉米村農業共済組合長、東由利村森林組合長などの公職を歴任、町勢の振興発展に尽くされました。昭和三十九年十一月、東由利村自治功労者章受章。心からご冥福をお祈り申し上げます。

支部長)から。
▽老方小へ雑巾50枚 小野ムネヨさん(上里)から。
▽老方小へ雑巾128枚 小野ミヨさん(上里)と小野ケサノさん(上里)から。

社福だより

香典返しとして、故阿部祐次郎氏のご遺族(阿部武治さん、十二の前)、故佐藤マサエさんのご遺族(佐藤雄一さん、中通)、故畠山忠太郎氏のご遺族(畠山久八さん、新町)から、それぞれ金一封が届けられました。

故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

◇ 昨年十二月に行われた「歳末助け合い運動」に、本荘市の佐々木栄雄さん(本町新町出身)から金一封が寄せられました。

町公民館では、町民の生活目標に掲げられている「ミエ、ムリ、ムダを省いた生活の工夫」の実践に取り組んで来ていますが、これをさらに推進するためのデータを得るため、さき頃、昭和56年度中に有隣館等で結婚式を挙げた34組を対象に、その経費等に関するアンケートを行い、一世帯当たり(もらう側)披露宴の額が73万円に達している等、町内の実態が初めて明らかにされました。

「会費制とは思えない…」と好評を博した真一・淳子さんの披露風景



結婚式 アンケート 調査実施

二年続きの冷害等により、農家を始めとし、町内の経済状態は極度に悪化してきており、従来提唱されて来た「くらしの見直し運動」が改めて注目されています。中でも年々豪華に

生活の
合理化

まず実
態の把握から

公民館の
ひろば



育てよう学ぶ心

調査対象件数34件
回答数23件・回答率68%

区 分	平 均	最 高
結納金の額	458,000円	700,000円
仲人への謝金	64,000円	100,000円
披露宴の招待者数(両家の合計)	91人	138人
結婚式の費用(両家の合計)	419,600円	1,155,000円
披露宴料理単価	5,990円	10,000円
引出物単価	4,400円	10,000円
披露宴総費用(もらう側)	734,300円	1,616,000円

1世帯当りの披露宴は平均73万円

ミエを脱ぎ真心
着せて嫁ぐ門出



新刊購入図書

こうしたときにあたり、町公民館ではかねてより簡素化の手段として提唱し続けてきた、会費制結婚式の推進をはかる意味あいから、五十六年度中に町内での結婚式を挙げた三十四組を抽出、その費用等について調査を行ってみました。

その一部がまとまりましたので、参考までに紹介します。

▼ユタとふしぎな仲間たち
▼吾輩は猫である上・下
▼ひねくれっ子天使▼サーカス少女のひみつ▼日本古寺美術全集第14巻(醍醐寺と仁和寺・大覚寺)▼教育行政の現状(教師はいかにすれば殴られなくてすむか)▼北国通信
▼報道写真1982▼日本大歳時記・春▼各駅停車・全国歴史散歩3(青森県)
寄贈▼大森町郷土史▼随筆集「心の雫」

短歌同好者募る

本荘、由利歌人会(本町から三名加入)では短歌に関心を持つ方々の入会を募っています。入会を希望される方は町公民館までご連絡ください。

移動文庫ご利用を

次に受け入れていただいている移動文庫を先月十二日に入れ替えましたので大いに

高校卒業生のつどい

とき 3月5日(金)
ところ 有隣館10時20分
内容 ▼講演・米田五郎氏「恋愛と結婚について」
▼演奏と語り・阿部十全ほか
▼映画「青年の生活設計」

若妻のつどい

町内各地域の若妻のみなさんが一堂に会し、日常の悩みや問題についての話し合い、またレクリエーションを通じて仲間づくり等を行う「若妻のつどい」を開催します。隣り近所さそい合って多数参加ください。

おしらせ

とき 3月14日(日)
ところ 有隣館
時間 午前9時半から午後3時半

利用ください。

黒 八塩縫製工場
田 渡辺イ子宅
館 菊地理容店
老 東洋縫製工場
老 東洋縫製工場
宮 前 マルサシー・デ社
蔵 ジャンプ工場
大 大蔵館
琴 佐々木理容店
宿 小野電子工業
袖 山 島山淳悦宅

移動文庫受け入れ先

内容 座談会、講話、映画、レクほか。
その他 託児所開設、昼食持参

高校合格を祝う会

とき 3月16日(火)
ところ 有隣館1時10分
内容 ▼講演・浅利尚介氏「高校生活で選ぶ自分の道」
▼協議「親の会の活動と組織について」▼映画「君はこの時間をどう使うか」
この日は合格の発表の日です。父兄の方々が多勢参加され、高校生活について学んでください。

